

# いのちと健康を守る活動

—CMIP ジョジョのクリニック日誌から—

<医療定期支援、10月—11月の報告より>

## <巡回診療>

10/28：予定していたティボリ町ダタルサファン地区での歯科診療は、雨続きで車が入れずに中止（11月も歯科医の都合で実施できなかった）

## <ハーブ薬栽培奨励の活動>

10/9-10：ノビシエートの薬草畑でハーブの手入れをした。特に、風邪に効くラグンデ（下記、写真と説明参照）は、たくさん増やして全てのミッションエリアに配布したい。栄養バランスある食事も病気予防に重要で、野菜の種の配布も計画している。



ジョジョさんが風邪患者にいつも勧めるラグン茶の灌木。CMIPクリニックの隣の畑には、この他、同じく風邪に効くオレガノ、免疫力を高めるターメリックなど全6種が栽培され、随時患者に処方されている。

11/13：タブロ、バルナブ、フィタク、スプ地区の、植え付けの準備ができた住民の裏庭で野菜の種を配布し、以前配ったハーブが植えられているか確認した。4地区ともハーブや野菜栽培のための畑の準備は終了し、植え付けのすんだ家も増えていて、栄養改善や病気等への備えが進んでいると感じた。

## <その他の医療支援>

10/29：25歳ナブル・カマガヤ小学校教師の女性が痛みを伴う排尿、二日間の熱と寒気を訴えた。塩辛いものを避けて水分を飲むことを勧め、一週間分の薬を処方。バナナの葉のお茶も尿路感染に効き腎臓をきれいにするので勧めた。

10/30：擦り傷、全身の痛みを訴えたナブルの42歳の男性は、傷の手当てのあと、回復を早めるためビタミン剤も処方した。増水したダタルカロン川を渡ろうとして流され、仲間に助けられたとのこと。



11/28：HANDSから寄贈の歯ブラシ70本を、ナブル・カマガヤ小学校のチェリル先生(写真)とロドリゴ先生に手渡し、歯磨き指導を指示した。

## <各学校の教師と母親クラブの活動>

10/31：トロクバトのセリエ先生から、発足した母親クラブ役員リストと、週末の家庭訪問による健康保険加入世帯調査結果が届いた。加入者は36世帯中13世帯と少なく、引き続き加入指導をお願いした。

—ムスリム医療チーム PIHS から—

<2014年4月—12月活動報告より>

今年度のHANDSの支援は、スタッフ給与や交通費補助程度の小規模なものでしたが、過去10年余りの支援を通じて、パリンバン町バロンギスなど4地域では、それぞれ自主財源によるヘルス活動が可能になりました。また、PIHSの実績が評価されて、町や各種支援団体の協力を得る機会も少しずつ増えています。以下、HANDS以外の支援によるものも含めてPIHS報告からご紹介します。

## <給食と栄養改善の活動>

8月24日から5日間、マニラの教会グループの協力で、1日約80-100名の子どもに給食支援を実施。低体重の子どもチェックのための体重測定も行った。



## <トイレ普及の活動>



ブラコンとパリンバンで、伝染病のリスクを避けるため、戸外で排泄をしないよう、トイレ造りを7月12日から開始した。

## <責任ある親になるためのセミナー>

ブラコンとパリンバンで開催され、まだ子どものいない人も含め、計120名が参加。子どもの基本的権利が紹介され、子どもにとって良い影響を与えられる親になるにはどうしたらよいかを学んだ。

## 11月のフラコン訪問・写真報告



訪問にあわせて、各種活動の一つとして実施された巡回診療では妊婦も受診。ナブサさんは逆子との診断を下し、定期的受診を指導しました。



ヘルス事業自主財源のヤシ屋根材作りコンテストを実施し、1時間15枚完成の母親が優勝しました。ちなみに1枚は2.5ペリになります。